

## 再建された見寄の薬師堂

### ～先人の心を偲び～

以前より風雨に晒され痛んだ薬師堂を気にかけていた若槻佑吉氏は、鳥取県西部地震で更なる破損を受けたのを期に再建を願う旧見寄自治会に呼びかけ、有志一同（薬師堂組惣中）で平成十三年五月二十八日再建を決定。更に各班より一名宛の世話人（松原宗治・藤原博・藤原勇雄の三氏）を決定し、工事に着手された。七月一日法要によりお薬師遷座仮安置。七月十六日薬師堂基礎が完成。七月三十日薬師堂棟上、八月三日銅版屋根葺き完了。遂に八月五日薬師帰座落慶法要を行い薬師堂再建の終了となった。場所は若槻佑吉氏の東隣りである。

ここに薬師堂の縁起（由来や功德）について記しておく。

◆山号 所在地から考えると、見寄山と思われる。

◆寺号 永明寺（ようめいじ）棟札により、長栄寺の寺と思われる。

◆発願 時期・勧請元も不明であるが、江戸時代初期に地区の有志の発願により、出雲十大薬師のなかでも靈験あらたかであった一畑寺（八九四）からの勧請が有力である。

◆本尊 薬師瑠璃光如来（東方瑠璃光浄土の教主、古代インド語で医者の長という意味の名を持つ佛で特に靈験あらたか）

◆造像 一体は発願当初からあり、もう一体は天宝十二年（一八四一）の七月五日下午阿井奥湯谷紋兵衛（大工）の作による奉納との銘あり。

◆合祀 馬頭観世音菩薩（変化観音の一つ）念怒相と頭上に馬の頭を頂き、人々の苦悩や災難など諸悪を消滅する観音。（のちにその像容から家畜や荷物を運ぶ馬の守り神となった）二体あり、うち一体は天保の銘あり。阿井観音霊場三十三所の巡拝の二十五番札所である。弘法大師（空海）阿井八十八カ所の巡拝札所の二十九番か。  
\*合祀時期は、観音巡礼が盛んになった江戸時代中期と思われるが、密教の籠り堂として祈念することも戦前までは盛んにおこなわれた。観音講もあったと思われる。

以上、旧見寄自治会有志一同二十名様の温故知新（先人・先輩の方々の心をたずね、これからの我われのありかたを知る）、この崇高な姿を紹介した。

